

ISBN 978-4-903875-23-1

Contribution to the Studies of Eurasian Languages (CSEL) Series 20

ユーラシア諸言語の多様性と動態－20号記念号－

ユーラシア言語研究コンソーシアム 2018年3月発行

Diversity and Dynamics of Eurasian Languages: The 20th Commemorative Volume

The Consortium for the Studies of Eurasian Languages

土族語の Conjunct/Disjunct について  
Conjunct/Disjunct in Mongghul and Mangghuer

角道正佳

KAKUDO, Masayoshi

## 土族語の *Conjunct/Disjunct* について\*

角道 正佳

キーワード：主観範疇、客観範疇、conjunct、disjunct、関与

### 1. *Conjunct* (順接形、接合) / *Disjunct* (離接形、離接) の名称の由来

カトマンズネワール語の引用文について Hale (1980) は Sadock の *Speech acts* の考えを用いて記述している。ネワール語の *Conjunct/Disjunct* の使い分けは以下のようになっている<sup>1</sup>。

平叙文で主節の主語 = 引用節の主語のとき、引用節の動詞は *Conjunct* (順接形) e. g. (i, ii)、主節の主語 ≠ 引用節の主語のとき、引用節の動詞は *Disjunct* (離接形) e. g. (iii) になる。Yes-No 疑問文では、主節の間接目的語 (聞き手) = 引用節の主語のとき、引用節の動詞は *Conjunct* (順接形) e. g. (iv, v, Vi)、主節の間接目的語 (聞き手) ≠ 引用節の主語のとき、引用節の動詞は *Disjunct* (離接形) e. g. (vii, viii, ix) になる。

直接話法

- (i) Wąq " Ji ana wanā " dhakāā dhāla  
 3SG-ERG<sub>i</sub> 1SG<sub>i</sub> あそこ 行った(CJ) と 言った(DJ)  
 彼は<sub>i</sub>「私は<sub>i</sub>あそこへ行った」と言った。

\* この論文は 2015 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会『ユーラシア言語研究最新の報告』2016 年 3 月 26 日、於：京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センターで口頭発表した内容に加筆したものである。

1 Hale は引用文でない単文(1)も(2)のような構造から説明できると考えている。

- (1) Ji ana wanā  
 1SG あそこ 行った(CJ)  
 私はあそこへ行った。
- (2) [Ji chita] "Ji ana wanā " [dhayā]  
 1SG 2SG 1SG あそこ 行った(CJ) 言った(CJ)  
 私はあなたに「私はあそこへ行った」と言った。

## 間接話法

(ii) Wəq [ wa ana wanā ] dhakāā dhāla  
 3SG-ERG<sub>i</sub> 3SG<sub>i</sub> あそこ 行った(CJ) と 言った(DJ)  
 彼は<sub>i</sub>;彼は<sub>i</sub>;あそこへ行った(CJ)と 言った(DJ)。

(iii) Wəq [ wa ana wana ] dhakāā dhāla  
 3SG-ERG<sub>i</sub> 3SG<sub>j</sub> あそこ 行った(DJ) と 言った(DJ)  
 彼は<sub>i</sub>;彼は<sub>j</sub>;あそこへ行った(DJ)と 言った(CJ)。

## Yes-No 疑問文が引用されている場合

聞き手=引用文の主語

(iv) Wəq jita " Che ana wanā lā" dhakāā dhāla  
 3SG-ERG 1SG-DAT 2SG あそこ 行った(CJ) QM と 言った(DJ)  
 彼は私に「あなたはあそこへ言った(CJ)か」と 言った(DJ)。

(v) Wəq chanta " Che ana wanā lā" dhakāā dhāla  
 3SG-ERG 2SG-DAT 2SG あそこ 行った(CJ) QM と 言った(DJ)  
 彼はあなたに「あなたはあそこへ言った(CJ)か」と 言った(DJ)。

(vi) Wəq walta " Che ana wanā lā" dhakāā dhāla  
 3SG-ERG 3SG-DAT 2SG あそこ 行った(CJ) QM と 言った(DJ)  
 彼は彼に「あなたはあそこへ言った(CJ)か」と 言った(DJ)。

聞き手≠引用文の主語

(vii) Wəq jita " Wa ana wana lā" dhakāā dhāla  
 3SG-ERG 1SG-DAT 3SG あそこ 行った(DJ) QM と 言った(DJ)  
 彼は私に「彼はあそこへ言った(DJ)か」と 言った(DJ)。

(viii) Wəq chanta " Wa ana wana lā" dhakāā dhāla  
 3SG-ERG 2SG-DAT 3SG あそこ 行った(DJ) QM と 言った(DJ)  
 彼はあなたに「彼はあそこへ言った(DJ)か」と 言った(DJ)。

(ix) Wəq walta " Wa ana wana lā" dhakāā dhāla  
 3SG-ERG 3SG<sub>i</sub> 3SG<sub>j</sub> あそこ 行った(DJ) QM と 言った(DJ)  
 彼は彼<sub>i</sub>に「彼<sub>j</sub>はあそこへ言った(DJ)か」と 言った(DJ)。

Hale は Wh 疑問文が引用節に現れる場合について述べていないが、Zu (2015a) に以下の例が載っている。さらに詳しい例は Zu (2015b) に述べられている。

(x) Shyam [ ji gana won-\*e/i ] dhaya dhanu?  
 (人名)<sub>i</sub> 1SG<sub>j</sub> どこ 行く-未来(\*CJ/DJ) と 言った(DJ)  
 シヤムは<sub>i</sub>;私が<sub>j</sub>;どこへ行く(DJ)と 言ったか(DJ)。

- (xi) Ji: [ ji gana won-e/\*i ] dhaya dhanu?  
 1SG-ERG: 1SG: どこ 行く-未来(CJ/\*DJ) と 言った(DJ)  
 私は<sub>i</sub> (私が<sub>i</sub>) どこへ行く(CJ)と 言ったか(DJ)。  
 1SG 一人称単数 2SG 二人称単数 3SG 三人称単数  
 ERG 能格 DAT 与格 QM 疑問助詞  
 CJ Conjunct DJ Disjunct

ネワール語は主節の主語（または間接目的語）と引用節の主語の一致関係で CJ/DJ が選択されるが、土族語は節内部で独立に CJ/DJ が選択される。

## 2. 土族語互助方言のパターン（中立的な形式-m, -ni, -wa を除く<sup>2</sup>）

平叙文	主観範疇(CJ)	客観範疇(DJ)	疑問文	主観範疇(CJ)	客観範疇(DJ)
I	無標 4.1 (1)~(5)	有標 4.2 (6)~(13)	I Q	<sup>3</sup>	無標 4.3 (14)(15)
II	×	無標 4.4 (16)~(18)	II Q	無標 4.5 (19)~(21)	有標 4.6 (22)~(25)
III	有標 4.7~4.9 (26)~(33)	無標 4.10 (34)~(38)	III Q	有標 4.11~4.13 (39)~(43)	無標 4.14 (44)(45)

I：一人称、II：二人称、III：三人称、Q：疑問文、CJ：Conjunct、DJ：Disjunct  
 ×：存在しない、空白は未確認、数字は以下に述べる章、例文の番号

## 3. 土族語互助方言の Perspective に関する先行研究の記述

### 3.1 Chingeltei (1989)

#### 主観範疇(CJ)

一人称の意図的行為、よく知られた行為、主観的な想像の付け足し  
 行為に対する主観的な決定、聞き手の主観的行為や希望の質問

- 2 -n, -ni, -wa には CJ/DJ の対がない。形式的には -jii (CJ) / -ja (DJ) という対があるが、-jii の頻度が少ないため、-wa (CJ) / -ja (DJ) のような対をなすと考えてもいいような場合もある。
- 3 査読者から「私が行くのか？（私が行くはずがない）」のような修辞疑問文でもこの形式は現れないのかという指摘があった。該当する例は得られなかったので空白にした。白井（2007: 309）はダバ語では一人称疑問文に CJ が用いられると述べている。

### 客観範疇(DJ)

一人称、二人称、三人称の客観的行為や客観的出来事(happening)の語り  
 三人称+主観範疇(CJ) 話し手が知っていることまたは想像していることを示す

三人称+客観範疇(DJ) 話し手が知っていることを示す

【問題点】客観的の意味があいまい。制御不可能なものは客観的なのか。  
 ~~~の説明では三人称における使い分けがわからない。4.7/  
 4.10を参照

### 3.2 Slater (2003: 194-220)の土族語民和方言(Mangghuer)のperspectiveの説明

| 平叙文 | 主観範疇(CJ) | 客観範疇(DJ) | 疑問文   | 主観範疇(CJ) | 客観範疇(DJ) |
|-----|----------|----------|-------|----------|----------|
| I   | 無標       | (A) 有標   | I Q   |          | 無標       |
| II  | 有標       | 無標       | II Q  | 無標       | 有標       |
| III | (B) 有標   | 無標       | III Q | 有標       | 無標       |

#### 有標の場合

(A) 制御できない(知覚、感情、非制御的な述語)

責任を取りたくない場合、他に選択方法がない場合 「私は遅れた(DJ)。」  
 (ただし聞き手に責任を押しつける意味はない)

(B) 「私」または「あなた」の関与(身内に関して) ただし随意的

聞き手に注意を向けて(嘘でも)信じさせる。「(これは)私の息子だ  
 (CJ)。」

事態に関する仮説を増幅させる。「午後、空は晴れる(だろう)(CJ)。」

### 4. 土族語互助方言の Conjunct (主観範疇) / Disjunct (客観範疇) の例

出典 『話語』: 清格爾泰等編(1988)東郷方言、ただし表記は李克郁式正書法に置き換えた。F: Faehndrich(2007)紅崖子溝方言

#### 4.1 一人称主語+主観範疇(CJ) 無標

話し手の属性

(1) Bu surijin ij. 『話語』 p. 4

私は 学生 です。

(2) Darang xjighaarla wai. 『話語』 p. 11

まだ 独身 です。

話し手の意志的行為

cf. 5.4 東山方言、5.5 紅崖子溝方言では DJ も現れる。

- (3) Bu ayilnu geril rogdugu nige jan gerdu saujji. 『話語』 p. 14  
私は 村の 南 側の 一 軒 家に 住んでいます。
- (4) Bu guanboo sunosinji. 『話語』 p. 29  
私は 放送を 聞いていました。

話し手の習慣

- (5) Bu durdundu jirghoon qagdu ni posinji. 『話語』 p. 37  
私は 毎日 6 時に 起きます。

#### 4.2 一人称+客観範疇(DJ) 有標

制御不可能<sup>4</sup>

- (6) Bu yaugu guleguna. 『話語』 p. 9 義務  
私は 行かなければならない。
- (7) Bu qirgoo nige saangzi sanaja. (F 211) 希望  
私は 湯を 1 杯 欲しい。

cf. 4.1 丹麻方言では CJ

- (8) Bu kijeeda yaangena mashdaadina. (F 209)  
私は いつも 何か 忘れてしまう。
- (9) Bu hurin taawun wa. 『話語』 p. 10 年齢  
私は 2 5 歳 です。
- (10) Bu tijin ghoor nasilaja. (F 210) 年齢  
私は 4 2 歳 になった。

予想外

- (11) Ee budagula ninge lekidija. (F 212)  
あの 我々は こうして 離婚した。

4 Creissels (2008: 10)は Akhvakh の自動詞を CJ を取るものと DJ を取るものに分類し、前者に属している hik'unula 「しゃっくりする」、ʒōruła 「泣く」はある程度コントロールできるため、volition ではなく control であると述べている。Wechsler (2014) 「なたを振り回して切った」のは volitional 且つ intentional であるが、「なたを振り回しているうちに切れてしまった」は volitional であるが intentional ではないと述べている。なお Wechsler は intention と control とは同じものであると考えているようである。Wechsler は Dickenson (2000) を引用しながら、Tsiriki の「私が吐く(CJ)」と「誰かが吐く(DJ)」の違いは control ではなく、前兆の意識(吐き気)があること(CJ)と驚き(DJ)の違いであると述べている。佐藤(2016: 339)によると、土族語と違って、保安語では ol- 「生まれる」、nasilo- 「何歳になる」、dərən kuri- 「したい」、gedə- 「病気が治る」は制御できない事態とは見なされない。しかし土族語と保安語をこのように単純に比べるのは正しくない。土族語の年齢を表す表現には以下のような違いがある。

- (12) Oyoo bu sgeji gua. (F 213)  
ああ、私は (あなたに) 会わなかった (=会えなかった)。
- (13) Bu gangulagnu hghalidija. (F 214) 不注意  
私は 瓶を 割ってしまった。

## 4.3 一人称主格+客観範疇(DJ) 疑問 無標

- (14) Bu darang wariguna nuu? (F 201)  
私は また しましょう か。
- (15) Qi ta, bu kidihaange nasi waina? 『話語』 p. 11  
あなたは 当ててください。私は 何 歳 ですか。

## 4.4 二人称主格+客観範疇(DJ) 無標

- (16) Qi njeena hghuinaa aladija. (F 191)  
あなたは 自分の 豚を 殺してしまった。
- (17) Tangula rgengula hamdu uqija. (F 192)  
あなた方は 彼らと いっしょに 食べた。
- (18) Qi rgennu taadasa ni yaudija. (F 193)  
あなたは 彼の ところから 行ってしまった。

## 4.5 二人称主格+主観範疇(CJ) 疑問 無標

- (19) Qi ken ii? 『話語』 p. 3  
あなたは 誰 ですか。
- (20) Qi anjii suujii? (F 201)  
あなたは どこに 住んでいるのですか。
- (21) Do qi lee tinging do tighaan ghajar tarinii[i]? (F 205)  
今 あなたは どれくらい 今 どれくらいの 土地を 植えるのですか。

---

|                                          |                       |
|------------------------------------------|-----------------------|
| bu xorɔn ta:vunna (DJ).                  | 東溝方言 [26] p.10        |
| 私は 2 5 (歳) です。                           |                       |
| бу хорін дѣран насѣ і (CJ).              | ハルチゴル方言[18] p. 310 90 |
| 私は 2 4 歳 です。                             |                       |
| bu nehon (nohong) haran naiman nij (CJ). | 東山方言 [22] p. 15 41    |
| 私は 今年 1 8 (歳) です。                        |                       |
| Bu hurin nige nesilija (DJ).             | 丹麻方言 [7] p. 19 139    |
| 私は 2 1 歳になりました。                          |                       |
| BI ERSHIYI BER BA (CJ).                  | 民和方言 [7] p. 19 139    |
| 私は 21 (歳) になりました。                        |                       |

## 4.6 二人称主格+客観範疇(DJ) 疑問 有標

聞き手の非意図的な事態

- (22) Qi amaguna? 『話語』 p. 22  
あなたは どうしたんですか。
- (23) Qi anjii shge ulisana? 『話語』 p. 13  
あなたは どこで 大きく なりましたか。
- (24) Do qi hanaja nuu? 『話語』 p. 22  
もう あなたは 治りました か。
- (25) Qi ndaala qingge yaugu duraan waina nuu gua?  
あなたは 私と チェスをする 希望が あります か。  
『話語』 p. 25 希望

## 4.7 三人称主格+主観範疇(CJ) 有標

単に三人称のことについて描写しているのではなく、話し手が聞き手に事情を説明する場合

- (26) Ee ne duloon agha diu dalang sausannij giji. (F 215)  
えーっと この 7人の 兄弟は 別々に 住んでいる って。
- (27) Loosolawa, te ghuiilo do mangdani. 『話語』 p. 26  
すみません 彼ら 2人は 今 忙しいです。
- (28) Do bu ama gisada yaugui, te rog kunge ndaa sge sauji.  
もう 私は どうしても 行きます。あそこで 人が 私を 待っています。  
『話語』 p. 36  
謎々の前半 しかし常にこのパターンになるわけではない。
- (29) Nige banbanzire duloon nuko ii. Yaan ii? (F 207)  
1つの 板に 7つの 穴が ある。 何? (答: 顔)
- (30) Jongge kundu nige pusee ii. Yaan ii? (F 208)  
百 人に 1本の 帯が ある。 何? (答: マニ車)

## 4.8 三人称主語(一人称斜格)+主観範疇(CJ) 有標

「私」の関与がある場合

- (31) Munu nire Tooya ii. 『話語』 p. 4  
私の 名前は トーヤ です。
- (32) Ndaa biyaan gui. (F 189)  
私には コインが ない。



4.9 三人称主語（関係節に一人称主語）＋主観範疇(CJ) 有標

「私」の関与がある場合

- (33) Bu mosisan ni shdur goodi wai. 『話語』 p. 35  
私が 着ているのは 長い 綿の服です。

4.10 三人称主格＋客観範疇(DJ) 無標

三人称に関する描写

- (34) Tengulang shdaasi tidaja. (F 196)  
蜘蛛は 糸を 引いた。
- (35) Dii hariji xjiguna. (F 199)  
そして (彼は) 返した。
- (36) Hgileji yuanweinu udendu gishgiguna ha. (F 200)  
乞いながら (彼女は) 役人の家の 門(の敷居)を 踏んだ。  
以下の2つの文は「私」の関与があると話し手が判断しなかった場合
- (37) Xorghuljin muni ghardu nige jauja. (F 194)  
蟻が 私の 手を ちよっと 噛んだ。
- (38) Hara ulija ha ndaanu buulais xuetaंगाsaja. (F 195)  
暗く なると 私の 子どもたちは 学校から 帰ってきた。

4.11 三人称＋主観範疇(CJ) 疑問 有標

謎々の後半 出題する人は答を知っている。しかし必ずしもこのパターンになるわけではない。

- (39) Qi ndaanu kudu xim. Bu tanu kudu xim. Yaan ii? (F 206)  
あなたは 私の 家に 行く、私は あなたの 家に 行く。何？ (答：袖)
- (40) Nige banbanzire duloon nuko ii. Yaan ii? (F 207)  
1つの板に 7つの穴が ある。何？ (答：顔)
- (41) Jongge kundu nige pusee ii. Yaan ii? (F 208)  
百 人に 1本の帯が ある。何？ (答：マニ車)

4.12 三人称主語（二人称斜格）＋主観範疇(CJ) 疑問 有標

「あなた」の関与がある場合

- (42) Qimu qaa wai yuu? 『話語』 p. 7 存在  
あなたには お茶が あります か。

4. 13 三人称主語（関係節に二人称主語）＋主観範疇(CJ) 疑問 有標  
「あなた」の関与がある場合

- (43) Qi iingelasan ni yaan ii? (F 203)  
あなたが 服に入れているのは 何 ですか。

4. 14 三人称主格＋客観範疇(DJ) 疑問 **無標**

- (44) Ne yaanna? 『話語』 p. 3  
これは 何ですか。

- (45) Te nige nine tundaa da surijinwa nuu? 『話語』 p. 4  
あの 1人の 女の 同志 も 学生 ですか。

4. 15 引用文

- (46) Munu kuu jirghoon saradu beerinaa awugu i gina. 『話語』 p. 12  
私の 息子は 6 月に 嫁を もらう(CJ) と言っています(DJ)。

- (47) Munu kuu shge ulisa jeefangjunre xjigunii gina. 『話語』 p. 41  
私の 息子は 大きくなったら 解放軍に 行く(CJ) と言っています(DJ)。

## 5. 土族語の実態

方言差（地域差、世代差、個人差）が大きい。ジャンルによってかなり違いがある。

■：無標 \*：例外的 ◁：「私」または「あなた」の関与 Q：疑問文

5. 1 互助丹麻方言 dPal-Idan bKra-shis, Keith Slater, et al. (1996: 14-27)

|     | <u>主観範疇(CJ)</u>    | <u>客観範疇(DJ)</u> |       | <u>主観範疇(CJ)</u>       | <u>客観範疇(DJ)</u> |
|-----|--------------------|-----------------|-------|-----------------------|-----------------|
| I   | 25                 | 14              | I Q   |                       | 2               |
| II  |                    | 2               | II Q  | 25                    | 5               |
| III | 8 ◁<br>(うち 7 「私～」) | 81              | III Q | 10 ◁<br>(うち 9 「あなた～」) | 44              |

## 5.2 互助哈拉直溝 (ハルチゴル Halqi ghul) 方言 Тодаева (1973: 306-311)

|     | <u>主観範疇 (CJ)</u> | <u>客観範疇 (DJ)</u> |       | <u>主観範疇 (CJ)</u> | <u>客観範疇 (DJ)</u> |
|-----|------------------|------------------|-------|------------------|------------------|
| I   | 3                | 2                | I Q   |                  |                  |
| II  |                  |                  | II Q  | 3                |                  |
| III | 1 ⇨              | 52               | III Q | 1                | 2                |

## 5.3 互助沙塘川方言 Schröder (1959: 177-182) (格言と比喩の例のみ)

三人称平叙文の CJ が非常に多い。

|     | <u>主観範疇 (CJ)</u> | <u>客観範疇 (DJ)</u> |       | <u>主観範疇 (CJ)</u> | <u>客観範疇 (DJ)</u> |
|-----|------------------|------------------|-------|------------------|------------------|
| I   |                  |                  | I Q   |                  |                  |
| II  |                  |                  | II Q  |                  |                  |
| III | 11*              | 11               | III Q | 2                |                  |

## 5.4 互助東山方言 朝克主編、布日古徳著 (2014: 1-146)

一人称平叙文の DJ が非常に多い。

|     | <u>主観範疇 (CJ)</u> | <u>客観範疇 (DJ)</u> |       | <u>主観範疇 (CJ)</u> | <u>客観範疇 (DJ)</u> |
|-----|------------------|------------------|-------|------------------|------------------|
| I   | 24               | 31*              | I Q   |                  |                  |
| II  |                  | 3                | II Q  | 22               | 4                |
| III | 13 ⇨<br>(うち6私~)  | 124              | III Q |                  |                  |

## 5.5 互助紅崖子溝方言 (Karlöng) Faehndrich (2007: 254-314)

三人称の CJ が多い (多くは謎々)

|     | 主観範疇 (CJ)          | 客観範疇 (DJ) |       | 主観範疇 (CJ) | 客観範疇 (DJ) |
|-----|--------------------|-----------|-------|-----------|-----------|
| I   | 9                  | 13        | I Q   |           |           |
| II  |                    | 3         | II Q  | 2         | 1         |
| III | 35*<br>(うち 21 は謎々) | 160       | III Q | 1<br>(謎々) | 1         |

## 5.6 民和方言 (Mangghuer) dPal-ldan bKra-shis, Keith Slater, et al. (1996: 14-27)

|     | 主観範疇 (CJ)          | 客観範疇 (DJ) |       | 主観範疇 (CJ)           | 客観範疇 (DJ) |
|-----|--------------------|-----------|-------|---------------------|-----------|
| I   | 41                 | 23        | I Q   | ×                   | 1         |
| II  | 1 ※                | 4         | II Q  | 44                  | 4         |
| III | 8 ◁<br>(うち 6 「私～」) | 70        | III Q | 10 ◁<br>(すべて「あなた～」) | 35        |

※ QI NINI AIDURUALASA, BI JUSA QI NINGGEJI  
 あなたが それを 嫌うなら、 私が 思うに、あなたは それを  
 KELISA BERNI Slater (2003: 209)  
 言えば よい。

## 6. 語源

主観範疇、客観範疇の形式はモンゴル文語の 2 種類のコピュラに起源があると思われる。しかし東部裕固語では両者の形式が逆転している。

モンゴル系諸語における主観範疇／客観範疇の形式

|           | モンゴル語 | 土族語<br>互助方言 | 土族語<br>民和方言 | 保安語 <sup>5</sup> | 東部裕固語 |
|-----------|-------|-------------|-------------|------------------|-------|
| 主観範疇 (CJ) | bayi- | -ii         | bi          | -i               | βe    |
| 客観範疇 (DJ) | a-    | -a          | bang        | -o               | βai   |

5 保安語のさらに詳しい形態は佐藤 (2016) を参照のこと。動詞の過去は-o (CJ)/-tc (DJ)

## 7. まとめ

土族語互助方言及び民和方言の無標の形式では一人称平叙文及び二人称疑問文の述語に主観範疇、それ以外で客観範疇の接辞が要求される。有標の場合、つまり一人称主語が出来事をコントロールできない場合は客観範疇の接辞が用いられ、話者が出来事に関与している場合は三人称主語の述語には主観範疇の接辞が用いられる。しかしこの傾向は方言的差異（地域、年齢、等）及びジャンルによっては必ずしも遵守されない。

## 8. 付録 Coniunct/Diunct のタイプ

Coniunct/Diunct の違いが述語に反映される言語は複数報告されており、地域的にも様々である。比較のため 10 言語について以下の項目に関してまとめる。

1. 主節の主語（あるいは間接目的語）と引用節の主語が一致するかどうかで述語の形式に違いが現れるか。

Newar, Akhvakh、チベット語、bDrapa、五屯語に確認できた。土族語にはこの現象は存在しない。

2. logophoric 代名詞があるか。

Coniunct/Diunct には直接関係がないけれども、引用節において重要な役割を果たすので、この項目を取り上げる。

bDrapa（文献 16, p. 138）。東部裕固語、東郷語、保安語（文献 40, 第 5 節）、文献 40 には述べられていないが<sup>6</sup>、土族語互助ハルチゴル方言には該当する代名詞が存在する（文献 19）。五屯語については文献[14, 69 頁]

3. Coniunct/Diunct の使い分けに述語の tense, aspect の制限があるか。

Akhvakh では perfective の肯定にのみ、東部裕固語では未来、現在にのみ現れる。土族語には制限がない。

---

という形式をしているので -o が一見 DJ のようにも見えるが、-o は土族語互助方言の -wa に対応する形式である。注 2 を参照のこと。

- 6 5. 2 土族語の引用文話者を指す代詞での清格尔泰 (1991)には、引用文中における引用文話者を指す形式についての言及は見当たらないと述べているが、Тодаева (1973) の III 1「狼と兎」、2「蛙」、5「マンガス」、7「妻」、8「ラレンボとチメンソ」、9「白い皇帝と黒い皇帝」、10「黒馬」（いずれもハルチゴル方言）には土族語の他の資料には現れない私を表す bu と共に logophoric な njeen という形式が現れる。

4. 非制御、非意図的な述語には **Disjunct** が現れるか。  
volition, intention, control に関しては統一的な見解がないようである。範疇を設定しても言語によって所属の仕方が異なる。注 4 を参照のこと。  
Newar では制御できる述語にのみ **Conjunct** が現れる。
5. 三人称主語の文において私またはあなたの関与<sup>7</sup>がある場合、**Conjunct/Disjunct** の現れ方が違ってくるか。
6. 聞き手への配慮<sup>8</sup>が **Conjunct/Disjunct** の現れ方に影響するか。  
確実に記述があるのは保安語積石山方言である。
7. 証拠性（情報源）に関して **Conjunct/Disjunct** の現れ方が違ってくるか。  
証拠性（情報源）に関する詳しい分析は十分とは言えないので、わかっている範囲で示す。
8. **Conjunct/Disjunct** の違いが動詞に現れるか。  
10 言語すべてに当てはまる。
9. **Conjunct/Disjunct** の違いが存在動詞に現れるか。  
チベット語、土族語、保安語に当てはまる。
10. **Conjunct/Disjunct** の違いがコピュラに現れるか。  
チベット語、土族語、東部裕固語、保安語、Salar

10 言語における **Conjunct/Disjunct** に対応する名称及び参考文献（参考文献のリストの番号によって記す）は以下のとおりである。

|          |                                                               |
|----------|---------------------------------------------------------------|
| Newar    | [9], [21], [22], [31]                                         |
| Akhvakh  | [5]                                                           |
| Oksapmin | personal-factual/visual-sensory [11]                          |
| チベット語    | 内的（自領域）／外的（他領域）<br>[10], [18], [30], [32], [33], [38], [39]   |
| nDrapa   | A 系列／ B 系列<br>[16], [36], [37]                                |
| 土族語      | 主観範疇／客観範疇<br>[3], [4], [7], [8], [15], [19], [23], [27], [28] |
| 東部裕固語    | [1], [2]                                                      |
| 保安語      | 確定／非確定、I 形式／ O 形式<br>[26], [35]                               |
| Salar    | 確定／非確定<br>[26]                                                |

- 7 平叙文の話者及び疑問文の聞き手を *assertor* と称し、*assertor's involvement* という表現が用いられることがあるが、ここでいう関与は有標の場合に限って用いる。有標の概念については第 2 節を参照のこと。
- 8 佐藤 (2016) によると、話し手が熟知していることでも、聞き手に配慮するときは **DJ** が用いられる。逆に、話し手が聞き手に反論するときには、三人称主語に関しても **CJ** が用いられる。

## Conjunct/Disjunct のタイプ

|                   | Newar          | Akhvakh             | Oksap-min | チベット語 | nDrapa         | 土族語 | 東部裕固語      | 保安語 | Salar | 五屯語 |
|-------------------|----------------|---------------------|-----------|-------|----------------|-----|------------|-----|-------|-----|
| 1 引用節             | ○              | ○                   | ×         | ○     | ○              | ×   | ×          |     | ×     | ○   |
| 2 logo-phoric 代名詞 |                |                     |           |       | ○              | ○   | ○          | ○   |       | ○   |
| 3 時制、アスペクト制約      |                | perfective positive |           |       |                |     | 未来 (-G) 現在 |     |       |     |
| 4 (A) 非制御 非意図性    | ○ 非制御          | ○ 非制御               |           | ○     | ○ 非意図発話時に結果が存在 | ○   | ○          | ○   | ○     |     |
| 5 (B) 関与          | 弱              | 弱                   |           | 強     | 強              | 強   |            | 強   | 強     | 強   |
| 6 配慮              |                |                     |           |       |                |     |            | ○   |       |     |
| 7 証拠性             | × <sup>9</sup> |                     |           | ○     | ○              | ×   | ×          |     | ○     | ○   |
|                   | CJ             |                     |           |       | 過程推論           |     |            | 過程  | 目撃    |     |
|                   | DJ             |                     |           | 目撃    | 結果目撃伝聞         |     |            | 結果  | 推論伝聞  |     |
| 8 動詞              | ○              | ○                   | ○         | ○     | ○              | ○   | ○          | ○   | ○     | ○   |
| 9 存在              | ×              |                     |           | ○     |                | ○   | ×          | ○   |       |     |
| 10 コピュラ           | ×              |                     |           | ○     |                | ○   | ○          | ○   | ○     |     |

○：存在が確認できたもの ×：不在が確認できたもの  
空白：未確認のもの

- 9 松瀬 (2010) は話者の意図的関与、制御性を証拠性と考えているが、これらは(A)に該当し、情報源ではないので、表から外した。

## 参考文献

- [1] Bolučilaḡu (1981a) 'Sira yoyur kelen-ü üyile üge-yin toḡaçin ögülekü tölüb,' *Öbör mongyol-un yeke surḡayuli-yin mongyol kele bičig sudulqu ḡajar-un kele bičig sudulqu ḡajar-un kele bičig-ün erdem sinḡilgen-ü ögülel-ün tegübüri*, dörbedüger debter, pp. 106-110.
- [2] Bolučilaḡu (1981b) 'Sira yoyur kelen-ü batulaqu sula üge βai bolun βe,' *Öbör mongyol-un yeke surḡayuli-yin mongyol kele bičig sudulqu ḡajar-un kele bičig sudulqu ḡajar-un kele bičig-ün erdem sinḡilgen-ü ögülel-ün tegübüri*, dörbedüger debter, pp. 165-167.
- [3] Chingeltei (1989) 'On subjective and objective mood in Monguor language,' Klaus Sagaster ed. edanke und Wirkung, *Festschrift für Nikolaus Poppe zum 90. Geburtsats*, Wiesbaden, Otto Harrassowitz, pp. 65-75.
- [4] Čingeltei (1981) 'Mongyor kele deki qoyar tusalaqu üile üge-yin tuḡai,' *Öbör mongyol-un yeke surḡayuli-yin mongyol kele bičig sudulqu ḡajar-un kele bičig-ün erdem sinḡilgen-ü ögülel-ün tegübüri*, dörbedüger debter, pp. 35-42.
- [5] Creissels, Denis (2008) 'Remarks on the so-called "conjunct/disjunct" systems,' *Syntax of the World's Languages III*, Berlin 25-28 September 2008.
- [6] Dickenson (2000) 'Mirativity in Tsiriki,' *Studies in Language* 24 (2): pp. 379-422.
- [7] dPal-Idan bKra-shis, Keith Slater, et al. (1996) *Language Materials of China's Monguor Minority: Huzhu Mongghul and Minhe Mangghuer*, Sino-Platonic Papers Number 69.
- [8] Faehndrich, Burgel R. M. (2007) *Sketch Grammar of the Karlong Variety of Mongghul and Dialectal Survey of Mongghul*, xxxi+350, University Microfilms.
- [9] Hale, Autstin (1980) 'Person Markers: Finite Conjunct and Disjunct Verb Forms in Newari,' Trail, R. (ed.) *Papers in Southeast Asian Linguistics*, 7. Camberra: Pacific Linguistics, pp. 95-106.
- [10] Kalsang Norbu, Karl A. Peet, dPal Idan bKra shis, and Kevin Stuart eds. (2000) *Modern Oral Amdo Tibetan A Language mantics Volume 5*, The Edwin Mellen Press, Lewiston • Queenston • Lampeter.
- [11] Loughnane, Robyn (2011) 'Conjunct-Disjunct Alignment in Oksapmin,' *Linguistisches Kolloquium*, 28 June 2011, Humboldt-Universität zu Berlin, pp. 1-26.
- [12] McCready, Eric (2007) 'Context Shifting in Questions and Elsewhere,' E. Pulig-Waldmüller (ed.) *Proceedings of Sinn und Bedeutung*, pp. 433-447, Barcellona: Universität Pompeu Fabra.
- [13] Sandman, Erika (?) 'Chinese in Contact with Tibetan: the Case of Wutun Language,' [http://www.fb10.uni.bremen.de/language\\_empiries/abstracts/sandman.pdf](http://www.fb10.uni.bremen.de/language_empiries/abstracts/sandman.pdf)
- [14] Sandman, Erika (2016) *A Grammar of Wutun*, Ph. D. disseertation, University of Helsinki.
- [15] Schröder, Dominik (1959) *Aus der Volksdichtung der Monguor*, 1 Teil, Otto Harrassowitz, Wiesbaden.
- [16] Shirai, Satoko (2007) 'Evidentials and Evidential-like Categories in nDrapa,' *Linguistics of the Tibeto-Burman Area*, Vol. 30.2, pp. 125-150.
- [17] Slater, Keith W. (2003) *A Grammar of Mangghuer, A Mongolic language of China's Qinghai-Gansu Sprachbund*, Routledge Curzon, Taylor & Francis, London and New York.
- [18] Sun, Jackson, T.-S. (1993) 'Evidentials in Amdo Tibetan Mdzo-dge (若兒蓋 (ruò'ěrgài),' 中央研究院歷史語言研究所集刊 第六十三本、第四分。
- [19] Тодаева (1973) *Монгорский язык*, Издательство «наука» главная редакция восточной литературы, Москва.
- [20] Wechsler, Stephen (2014) 'Self-Ascription in Conjunct-Disjunct Systems.' [hpsg.fg-berlin.de/~stefan/Bilder/wp-content/uploads/2014/11/ZAS-Conjunct-Disjunct-Slides-2.pdf](http://hpsg.fg-berlin.de/~stefan/Bilder/wp-content/uploads/2014/11/ZAS-Conjunct-Disjunct-Slides-2.pdf)
- [21] Zu, Vera (2015a) 'Binding and Shifting in Kathmandu Newari' MS. <http://campuspress.yale.edu/fasal5/files/2015/02/zu-1ulŋ9hi.pdf>
- [22] Zu, Vera (2015b) 'Competition and Obviation from French to Newar,' *NELS* 46, Concordia University.



- [23] 朝克主編、布日古德著 (2014)『土族語 366 句會話句』中国社会科学院創新工程學術出版資助項目 社会科学文献出版社.
- [24] 陳乃雄 (1989)「五屯語動詞形態」『民族語文』一九八〇年第六期 pp. 26-37.
- [25] 陳宗振、雷選春 (1985)『西部裕固語簡志』《国家民委民族問題五種叢書》之一 中国少数民族語言簡志叢書 民族出版社.
- [26] 刘照雄、林蓮云 (1980)「保安語和撒拉語里的确定与非确定語气」『民族語文』一九八〇年第三期 pp. 13-18.
- [27] 清格爾泰等編 (1988)『土族語話語材料』蒙古語語言方言研究叢書 015 内蒙古人民出版社.
- [28] 清格爾泰編著、李克郁校閱 (1991)『土族語和蒙古語』蒙古語語言方言研究叢書 013 内蒙古人民出版社.
- [29] 安部清哉 (2006)「チベット語アムド方言 (アムド・チベット語) の文法略述三題 -①敬語、②叙述の助動詞「〜デス」、③存在文-」『人文』5 (学習院大学) pp. 109-126.
- [30] 海老原志穂 (2010)『アムド・チベット語の発音と会話』平成 22 年度言語研修アムド・チベット語テキスト1、東京 外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- [31] 石井 博 (1992)「ネワール語」亀井孝、河野六郎、千野栄一編『言語学大事典』第 3 卷世界言語編 (下-1) 三省堂 pp. 37-45.
- [32] 星 泉 (1993)「チベット語ラサ方言の確定的な判断を表す二つの動詞 *yin* と *ree* と話し手の領域意識」第 110 回日本言語学会大会ハンドアウト.
- [33] 星 泉 (1998)「チベット語ラサ方言の述語動詞 *yon* の意味」『言語研究』113, pp. 63-95.
- [34] 松瀬育子 (2010)「ネワール語における *Conjunct* と証拠性」岸本秀樹編『ことばの対象』くろしお出版 pp. 111-126.
- [35] 佐藤暢治 (2016)「保安語積石山方言の話し手は文が表す事態をどのように捉えているのか」『日本言語学会第 153 回大会予稿集』pp. 336-341.
- [36] 白井聡子 (2005)「ダバ語における *conjunct/disjunct* システムについて」3 科研合同研究会ハンドアウト.
- [37] 白井聡子 (2007)「ダバ語における「視点」を示す二系列の助動詞」『京都大學文學部研究紀要』第 46 号 pp. 267-344.
- [38] 武内紹人 (1990)「チベット語の述部における助動詞の機能とその発達過程」崎山理、佐藤昭裕編『アジアの諸言語と一般言語学』三省堂 pp. 6-16.
- [39] ツェジワンモ (2013)「カム・チベット語ティンドゥ方言の証拠性を表す助動詞=*ʔa* について」語学研究所・Luncheon Linguistics, pp. 1-11.
- [40] 梅谷博之 (2016)「河西回廊地域モンゴル諸語の人称代詞」公刊資料に基づく中国・河西回廊地域モンゴル諸語の研究 2015 年度第 3 回研究会.

## Conjunct/Disjunct in Mongghul and Mangghuer

KAKUDO Masayoshi

The first person subject of declarative sentences and the second person subject of interrogative sentences take subjective (= conjunct) marker, otherwise objective (= disjunct) marker for the predicate in unmarked cases in the Monguor language (Mongghul and Mangghuer). In marked cases, i. e. objective marker is chosen when the first person subject can't control the event, and subjective marker is chosen even for the third person subject when the speaker is involved in the event. However this tendency is not always obeyed due to the dialect difference (area, age, etc.) and genre.